

代表取締役社長

山内一裕

特別対談

元バレーボール日本代表

竹下佳江

今回は、弊社がエリアスポンサーとなっているプロバレーボールチーム「ヴィクトリーナ姫路」の前監督で、元バレーボール女子日本代表の竹下佳江さん（現：取締役球団社長付エグゼクティブアドバイザー）と対談をさせていただきました。なお、今回の対談は、弊社初代工場操業の地と至近の浅草ビューホテルにて行いました。



早速ですが、私は日本女子チームがロンドン五輪で28年ぶりのメダルを獲得した時にテレビで拝見して感動したことを覚えています。竹下さんといえば、シドニー五輪予選敗退の屈辱から不死鳥のように復活した不屈の精神や、セッターとしての生命線である人差し指を本番直前に骨折したままメダルを獲得した闘志、不振にあえいだチームの主将として真鍋監督

(当時)とチームを再生させた苦労話、そして何よりも共通している「絶対諦めない心」など、お聞きしたいことは山のようにあります。

しかし、紙面の都合上、今回は、経営者として興味深い「セッター思考」というものをお伺いできればと思います。「セッター思考」は竹下さんの著書のタイトルでもありますね。

そうですね。2015年に出版した本の中でお話をさせていただいたものです。私は、低身長の子として決めて順風満帆とはいえないバレーボール人生を歩いてきたように思いますが、その中で、バレーボールチームはアタッカーばかりではダメだし、リベロ(守備専門の役割)ばかりでもダメで、その間を繋ぐセッターという役割が必須だと思いました。つまり、さまざまなタイプの人間をまとめてチームを作り上げる「セッター思考」が求められているように思ったのです。

なるほど。そういえば、今回、竹下さんの現役時代のプレーをYouTubeで改めて拝見したのですが、まさに縦横無尽に、前にも後ろにも、左右にも、その瞬間にベストと思われるタイミングで正確無比なトスをあげる姿は素人目にも驚愕でした。後ろ向きにあげるトスなどは後ろに目があるようです(笑)。

後ろに目があるは言い過ぎでしょうが(笑)、確かにセッターとして、アタッカーのリズムに合わせてトスを上げることが重要なので、いつもアタッカーがどこにどのタイミングで入ってくるかを視野の中に入れていましたし、相手チームのブロックの動きも視野に入れて、アタッカーにとってベストのトスをあげることに努めていました。

アタッカーが早く来れば素早く上げ、遅れてきたら指先で一瞬溜めて遅らせる技術も必要です。簡単に言えば、アタッカーに気持ちよく打たせる能力が重要

で、そのために、セッターは身体能力や意思疎通能力だけではなく、全体を見渡す能力が求められると考えています。

それが、いわゆる「セッター思考」の一つの要素なのでしょうね。私たち経営者も、日々社員に目配りをして、個々の社員の調子の良い時、悪い時なども見極めながら、組織として課題を達成できるようにマネジメントをしているように思います。なかでも、当社は女性社員が半分以上を占めており、ジェンダーフリーな組織マネジメントも、正直なところ男性経営者としては気になるところです。

リーダーにはカリスマタイプの人もいますが、例えば女子バレーボールチームのような女子チームのマネジメントには、セッター型リーダーの方が向いているのではないかと思います。

人の話を誠心誠意とことん聞き、相手を知り尽くそうとする「セッター思考」でないと女性は心を開かないように思います。

なるほど、それは興味深いお話です。セッター思考には幅広

い視野と深い経験が必要でしょうね。セッター思考にも繋がると思うのですが、竹下さんは、世界最小最強のセッターと呼ばれながらも、海外の高身長選手を相手にして、自分は背が低いから戦えないと感じませんでしたか？

「背が低いから戦えない」ではなく、「背が低くても戦える」と考えていました。できない理由を、できる理由に変えれば、どんなチームでも強くなれると思っています。

御社は業歴が125年と長く、その間には紆余曲折もあったと思いますが、山内社長がこれからのダイトウボウを更に成長させる道程で「セッター思考」がお役に立てば幸いです。

ありがとうございます。著書のほかにも「迷ったら楽な道より厳しい道を選ぶ」などの『セッター思考を磨く七つの習慣』や、『セッター型リーダーとしてどう振舞うべきか』など、示唆に富んだ内容が満載で、改めて本を読んで深く知りたいと思います。

本日は、「セッター思考」だけでなく、竹下さんの優しい笑顔や真摯な姿勢など、お人柄の一端にも触れることが



できて、私自身とても刺激を受け、明日からの企業経営に向けたエネルギーを頂いたように思います。バレーボールVリーグの最中にお時間を頂けて光栄です。ヴィクトリーナ姫路のさらなる活躍を大いに期待して、これまで以上に応援にも励みます。

本日はありがとうございました。

こちらこそ山内社長とお話できて光栄です。これからも応援よろしく願います。



●プロフィール 竹下佳江

元バレーボール女子日本代表主将。五輪3大会出場で2012年のロンドン五輪で28年ぶりのメダル獲得に貢献。身長159センチの小柄ながら「世界最小最強セッター」と呼ばれた。現役引退後、女子プロバレーボールチーム「ヴィクトリーナ姫路」の監督に就任し、V1リーグに昇格させるなど手腕を発揮。現在は、取締役球団社長付エグゼクティブアドバイザーを務めるとともに、講演会やバラエティ番組出演など多方面で活躍されています。

